



令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月26日

札幌市立札幌中学校

1 本年度の重点目標

心をかたちに
～言葉と行動、思いやりと支えあい～』

2 本年度の経営方針

- ◇安心して生活し、学習できる学級・学年・学校
- ◇生徒一人一人が承認される学級・学年・学校
- ◇将来の目標達成に向けて学び合うことができる学級・学年・学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
A 学校運営・教育活動全般	1. 本校生徒は、学校の重点目標を意識して学校生活を送っている。	A	本校では、「心をかたちに」を重点目標として教育活動を行っている。昨年度に引き続き、「言葉と行動、思いやりと支え合い」をテーマに取り組んでいる。学校からの配付物や、校内掲示物、ホームページでの発信を通して周知を図り、肯定的な回答の割合は、82.8%と、過去3年間を比較すると年々上昇している。次年度も行事や集会、学級活動などでの発信を通し、生徒への意識を高めることで効果的に教育活動を進めていく。	A	A
	2. 本校生徒は、仲間と協力して物事に取り組めるようになってきている。 【人間関係形成能力】	A	本校では、将来他者と協働して課題を解決する力を身に付けてほしいとして、望ましい「人間関係形成能力」の育成を教育課程の軸としている。肯定的な回答の割合は88.2%と昨年よりも1.5%上昇した。 合唱コンクールや、体育祭などの学校行事を通して、仲間との協力を感じる生徒が多くなったと考える。次年度も学校行事の取組や授業での協働的な学びを通し、育成を図っていく。	A	A
	3. 本校生徒は、自分の考えを正確に伝えることができる。 【人間関係形成能力】	A	今年度は「自分の考えを他者に伝える」ことが72.3%と、昨年度と比較して8.7%増となった。しかし、生徒の回答に比べ、保護者、教職員の割合は低く、大人からみると、生徒の表現能力はまだまだ課題がみられると考えられる。体験活動や発表活動、各教科等での話し合い活動を通して、コミュニケーションスキルが向上するよう引き続き指導していく。	A	A
	4. 本校生徒は、自分自身によいところがあると考えている。 【自尊感情】	A	本項目は、自己肯定感の向上を目指して日々の指導に取り組んできた。その成果が少しずつ表れ、数値も年々高くなってきている。今年度は、1.7%増の74.3%という結果だった。一昨年度からは8.0%増である。様々な大人が関わることで、生徒の良い部分や可能性を見つけるとともに、互いに認め合う風土を醸成することで引き続き、向上に努めていく。	A	A

(様式2)

	5. 本校教職員は、生徒の悩みや相談に親身になって対応している。	A	本校では、教育相談を重要な教育活動と位置づけ、多くの時間を設定するとともに、生徒の相談に対し、担任だけでなく、学年教諭や養護教諭が話を聞いたり、SCや学びのサポーターとも積極的に連携をとることで生徒理解に努めている。 今年度は、生徒の84.3%、保護者の84.1%が肯定的な回答を示しており、生徒と教師が良好な関係を築けていることが伺える。引き続き丁寧に生徒の様子を見取りながら、相談活動を充実させていく。	A	A
	6. 本校生徒や保護者は、本校に入学してよかったと感じている。	A	生徒の回答では83.5%、保護者は90.6%が「本校に入学してよかった。」と肯定的な回答をしている。昨年度に比べ3.6%増である。また、保護者の回答では、「お子さんが学校生活を楽しんでいる」も昨年度よりも上昇傾向にあった。 多くの生徒が学校生活を楽しむことができていることは、大変喜ばしい結果であるが、それに油断することなく、幅広く生徒の状況を把握しながら、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、家庭との連携に努めていく。	A	A
A 学校関係者評価委員による意見		全体的に肯定的な回答の割合が高くなっている。今後も道徳の授業などを通して、生徒たちの心の育成をお願いしたい。			
B 学習指導	7. 本校生徒は、意欲的に学習に取り組んでいる。	B	肯定的な回答をした生徒は、68.0%だった。一方、保護者の回答は55.1%と生徒回答に比べ低かった。保護者目線だと、まだ不十分に感じられる部分があることが伺える。 引き続き、学習が苦手な生徒も意欲的に学習に取り組めるような、わかりやすい授業の工夫を進めていくとともに、生徒が積極的に学習に向かうよう、家庭との連携にも努めていきたい。	A	A
	8. 本校生徒は、授業で課題に取り組む時、グループのほうに取り組むやすいと考えている。 【人間関係形成能力】	A	72.6%の生徒が、「グループの方が取り組みやすい」と答えている。また、札幌市共通指標子どもの自己評価では、「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」が81.4%と肯定的な回答が多い。本校では、「課題探究的な学習」として、各教科等での学び合い、グループでの話し合いを効果的に取り入れている。次年度もこの取組を継続していくことで、上記項目7の意欲的な学習にもつなげていきたい。	A	A
	9. 本校生徒は、普段から計画を立てて学習に取り組んでいる。	C	保護者の見取りでは36.2%、生徒の回答は50.9%と、昨年度より3.0%増であったが、他項目と比較しても低い数値にある。本校は、評価の2期制を行っており、3期制に比べると、日常での学習計画や、学習習慣の確立がより一層望まれる。 計画的な学習については、家庭でも苦慮している部分だと思われる。学校として、自ら課題を見付ける工夫を行うなど基礎的な学力を定着できるよう強く努めていきたい。	A	A
	10. 本校では、授業においてICTの機器を効果的に活用できている。	A	肯定的な回答の割合は86.1%と一昨年度より11.5%増であった。ICTの活用についてのアンケートでは、「ICTの活用が学習の役に立つ」と答えた生徒は9割以上おり、多くの生徒がICTの価値を見出している。次年度も引き続き研修を重ねつつ、ICTを効果的に活用することで、子どもたちの深い学びにつながるよう努めていく。	A	A
	11. 本校生徒や保護者は、学習面での努力や成果に応じた評価がされたと感じている。	A	肯定的な回答の割合は、85.6%で、昨年度から7.0%増であった。 本校では、基礎基本をベースとした授業作りを課題としながら、今年度は特に「個別最適化を目指した公平な教育（協働的な学び）」をテーマに研修を重ねてきた。次年度も更に研修の充実を図り、生徒一人一人に適切な評価を行っていくよう努めていく。	A	A
B 学校関係者評価委員による意見		各分野で活躍する著名人の体験談を直接聞くことで、生徒一人一人が将来の目標や生き方について主体的に考える機会となる。成功体験だけでなく、挫折や困難の克服過程を学び、生涯ビジョンを具体化する契機とすることを期待したい。			

(様式2)

C 生徒指導	12. 本校生徒は、ルールを守って生活している。	A	「ルールを守って生活している」と回答した生徒は、93.0%という高い数値だったが、保護者、教職員の見取りでは7割程度にとどまり、生徒回答との乖離が見られた。本校では、この質問項目を学校改善の重要な成果指標と考え、保護者や地域と一体となり、粘り強く指導を続けてきている。しかし、不要物の持ち込みやSNSが原因となる人間関係のトラブル等、生活指導の案件も少なからず生じており、引き続き、生徒の意識を高めていけるよう指導を継続していく。	A	A
	13. 本校生徒は、睡眠時間を十分に確保している。	B	肯定的な回答の割合は62.0%だった。1日当たりどれくらいの時間ゲームやSNS、動画視聴をするかの回答は、平日で3時間以上使用する割合が54.5%、休日に限っては79.1%という結果だった。SNS等の過剰な使用により生活リズムを崩し、睡眠時間が短くなるのが十分に考えられる。学校での指導も継続していくが、家庭でのフィルタリング等の活用や使用ルール作りも是非お願いしたいと考えている。	A	A
	14. 本校生徒は、毎日朝食をとっている。	A	ここ数年安定して高い数値となっている項目である。今年度は、肯定的な回答の割合は生徒は87.0%、保護者は91.3%で4.0%増となった。朝食をしっかりとすることは、生活リズムを確立する上で、大変重要であると考えられる。保護者の方々の日々の協力に感謝するとともに、今後もご協力いただきたい。	A	A
	15. 本校生徒は、進んであいさつをしている。 【人間関係形成能力】	A	肯定的な回答をしている生徒は88.9%、保護者は79.7%と高い数値となっている。委員会での挨拶強化の取組や、学年、部活動での指導により、生徒がより自主的に行えるようになってきていると考えられる。また、小中一貫教育の中で、9年間の教育課程で、挨拶を重要な柱として位置付け、小中で一貫した指導を行っている。 挨拶は、人間関係形成のための第一歩であると考えている。今後も、引き続き指導を継続していく。	A	A
	16. 本校生徒は、いじめはどんな理由があってもいけないことと考えている。 【人間関係形成能力】	A	生徒全体で91.3%の生徒が、いじめはいけないことと捉えており、多くの生徒がいじめについて真剣に考えていることが結果に表れている。本校では、「いじめ防止基本方針」を策定し、年2回いじめ実態調査を行っている。また、毎月いじめ対策委員会を開催し、各部、学年で連携を取りながら、組織でいじめ対策にあたっている。今後も引き続き、学級・学年指導や道徳教育の中で、「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度や風土を醸成していく。	A	A
	17. 本校生徒は、仲間への思いやりを意識して生活している。 【人間関係形成能力】	A	「人間関係形成能力」に大きく関わる項目であり、今年度は、生徒全体で92.7%と昨年と比較すると1.4%増であった。教師の見取りも、昨年度より27.4%増だった。多くの仲間への思いやりを意識して生活していることは素晴らしい成果と考える。今後も、この意識を大切にして指導を継続していく。	A	A
	18. 本校生徒は、家庭でよく悩みや相談に対応してもらっている。	A	肯定的な回答をしている生徒は、72.1%で、昨年度より2.5%増加している。中学生という多感な年頃もあり、様々な悩みや不安を抱えている時期だと考えられるが、子どもの話をしっかりと聞いてもらえる家庭環境があることが、充実した学校生活にもつながっていくものと考えられる。今後も、学校と家庭との連携をより深め、内容に応じて、専門家、関係機関と組織的に対処するようにしていく。	A	A
C 学校関係者評価委員による意見			スマートフォンやタブレットの使用に関しては、単に使用時間を制限するだけでなく、他者を尊重し、誹謗中傷を行わないことや社会的マナーを守ることなど、使い方そのものへの指導が不可欠である。引き続き家庭との連携を密にしながら、情報モラル教育の充実をお願いしたい。		

(様式2)

D その他の学習、 教育活動	19. 本校生徒は、学校行事を通して仲間との社会性を育んでいる 【人間関係形成能力】	A	札幌体育祭や札幌フェスティバルなどの行事があり、今年度はKitaraで合唱コンクールを行った。91.3%の生徒が、肯定的な回答をしている。また、教職員の見取りも高い割合で、行事による生徒の成長を感じることができた一年であったと考えられる。学級やチームが協力しあって取り組むことにより、お互いを認め合い、尊重する場面も多くあり、「人間関係育成能力」の育成に視点を置いて、行ってきた成果の表れと考えられる。次年度も、生徒が仲間との協力の大切さを実感できるような取組を継続していく。	A	A
	20. 本校生徒は、学校行事へ積極的に参加している 【人間関係形成能力】	A	全体で87.5%の生徒が肯定的な回答をしている。生徒は意欲的に活動に参加し、大きな成長を遂げることができたと考える。特に上級生の素晴らしい取組が、下級生の意識を高めることにつながっている。今後もより積極的な取組になるよう行事を推進していく。	A	A
	21. 本校の旅行的行事の内容は充実していると感じる	A	84.6%の生徒が肯定的な回答をしている。保護者も90.6%と、昨年度より6.3%増で、本校の旅行的行事について、一定の理解をいただいているものとする。本校は、旅行的行事の取組を、総合的な学習の時間の中に位置付け、自主研修や体験学習を実施している。また、行事を通して委員会や係活動の自主的運営の質の向上が見られるようになった。次年度も自然や文化に親しむとともに、集団生活や公衆道徳等の成長につなげていきたい。	A	A
	22. 本校生徒は、将来の生き方についてしっかり考えている	B	肯定的な回答をしている生徒の割合は72.1%、保護者は83.3%で昨年度より15.1%増だった。本校では、総合的な学習の時間を中心に、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てていくキャリア教育に取り組んでいる。1年生は地域探究、2年生は職業探究(体験)、3年生は進路探究を実施し、地域や企業の協力もあり、生徒の生き方指導につなげることができた。本物の体験に触れる機会を増やしたり、日常の中でも、早い段階から、相談活動や進路相談を通して、必要な指導を継続していく。	A	A
	23. 本校生徒は、学校の道徳の学習に意欲的に取り組んでいる	A	85.9%の生徒が意欲的に取り組んでいると回答している。本校では、全体計画及び年間指導計画を作成し、年間35時間の道徳の時間を確保して取り組んでいる。また、学級担任だけではなく、学年の教員全員が道徳の授業を行い、より広い視点で道徳教育に取り組んでいることが成果につながっていると考える。次年度もこの取組を継続し、生徒の道徳的な心や感性を養っていきたい。	A	A
	24. 本校の部活動は、生徒の日常の学校生活に役立っていると思う	A	(※部活動非加入生徒、保護者も回答) 肯定的な回答をした割合は74.5%で、昨年度と同程度だった。活動時間の制限はあるが、練習や様々な大会等に参加できることが、仲間との関係性の醸成や、挨拶・礼儀等の育成につながっているものとする。今後も望ましい「人間関係形成能力」を育成し、生徒にとって充実した活動になるよう努めていきたい。	A	A
D 学校関係者評価委員による意見		学校行事を充実させ、生徒が主体的に役割を果たし、教育活動の成果を感じることができた。教職員が一丸となって生徒指導や学習支援に取り組んでいる点も心強い。引き続き、安全・安心を第一に、魅力ある学校づくりを推進していただきたい。			
E 家庭・地域との連携	25. 本校と家庭は、連携協力関係ができている	A	肯定的な回答の割合は94.6%で昨年度より13.1増だった。日常的に担任教師をはじめ、部活動顧問等が、家庭との連携を密にとっていることが、本校の教育への理解と協力をいただけたと考える。また、学級(学年)懇談会、授業参観の開催や、行事の様子を参観してもらうなど、保護者の方に積極的に参加していただけたことも成果の一つである。今後も家庭や地域との連携を積極的に行い、協力しながら教育活動に取り組んでいきたい。	A	A

(様式2)

	26. 家庭で、生徒から保護者に配付物が渡されている	B	<p>学校でも生徒への継続的な指導を続け、生徒の意識は高まっており、保護者の回答は63.0%と、昨年度より16.4増となった。「すぐー」が導入され、様々な連絡をメール配信できるようになった。迅速かつより確実に保護者に情報を伝えることができる反面、紙媒体がより保護者に渡されなくなっていることが伺える。</p> <p>学校でも今後も引き続き、生徒に指導を継続していくが、ご家庭でもプリント等の確認をしていただきたい。</p>	A	A
E 学校関係者評価委員による意見		配付物の取扱いについては、引き続き家庭との連携を図りながら、確実に情報が共有される体制づくりに努めていただきたい。また、「すぐー」等の利便性の高い連絡ツールについても、その特性を生かしながら効果的に活用し、学校からの情報発信の充実を図っていただくことを期待する。			